

第6章 公開・活用及び管理・運営に関する計画

6-1 公開・活用に関する計画

6-1-1 段階的な整備と公開

「益田市歴史を活かしたまちづくり計画」の策定から、20数年が経過した。この間、平成16(2004)年9月に益田氏城館跡が国史跡に指定され、以後、寺院境内地の公有化と内容確認のための発掘調査に取り組んできたが、権利者や地域住民をはじめとする市民からは整備活用に向けての本格着手が待ち望まれているところである。

しかし、益田氏城館跡は広大な範囲におよぶため、整備は長期の計画で段階的に行うこととなる。

よって、史跡の公開も、整備が完了した箇所から順次、行うものとする。公開は、三宅御土居跡を優先して行い、七尾城跡へと移行する。三宅御土居跡については、まず、主郭ゾーンと土塁ゾーンに残存する構造物等の撤去とあわせて、広場の整備、土塁の修復を行い、2022年度の主郭ゾーンの供用開始、2024年度の土塁ゾーンの供用開始を目標とする。また、当面の措置として仮設ガイダンス施設を設置する。

七尾城跡については、現時点でも本丸等まで登城が可能だが、尾根筋は樹木の繁茂や見学路が未整備であるため、円滑な見学に支障をきたしている。よって、七尾城跡は計画的な支障木の伐採等による見学区域の拡大を図り、三宅御土居跡の整備・公開と連動させながら活用を図るものとする。

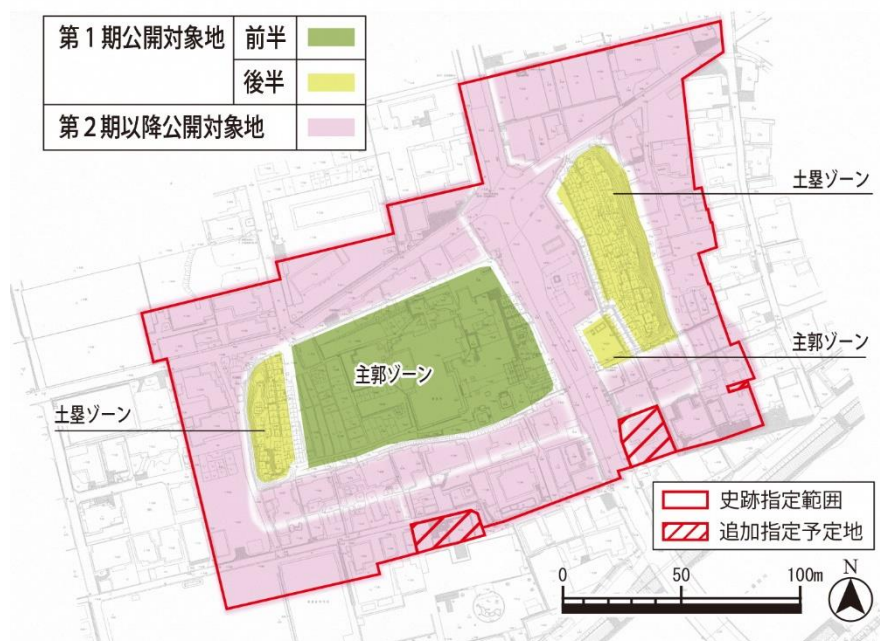


図6-1 三宅御土居跡公開計画図

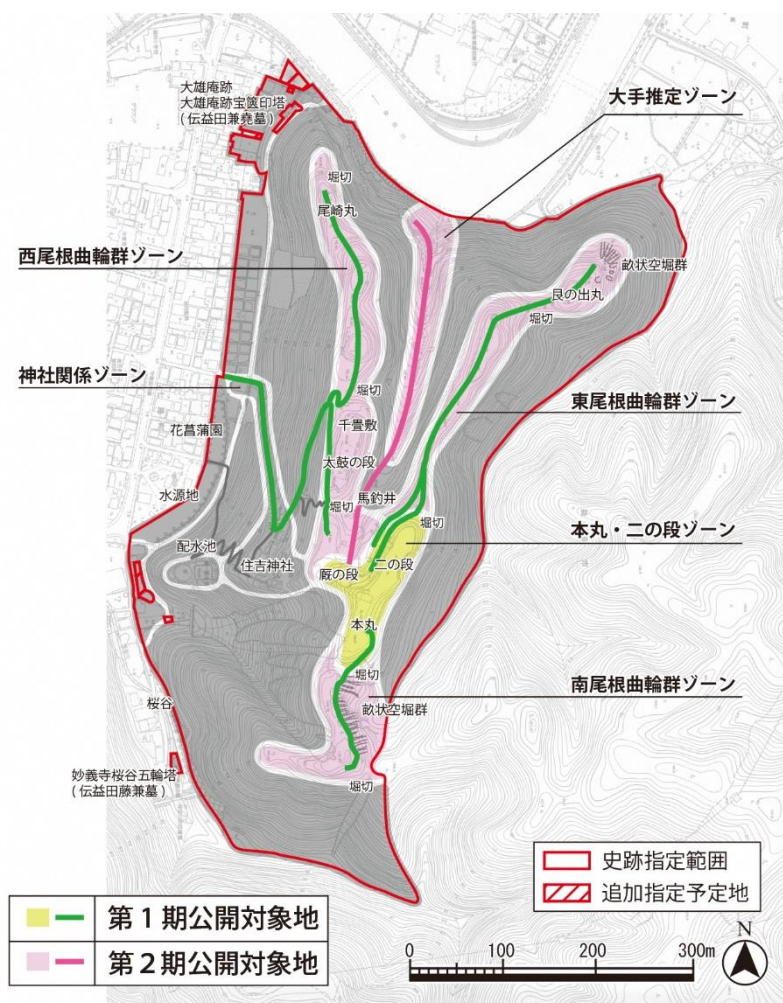


図 6-2 七尾城跡公開計画図

6-1-2 活用の推進

史跡の活用は、遺跡そのものの整備が完了していなくても可能な事項もある。【3-6-3(1) 歴史文化の活用の状況、P100】で述べたように、史跡周辺地域では、市民が中心となって文化財を活用したイベントを数多く実施している。「益田七尾まつり」は、中世益田を彷彿とさせる祭りであり、参加者・見学者が祭りを通して中世の雰囲気味わうことができる、地域の特徴ある一大イベントとなっている。

歴史を活かしたまちづくりを掲げる益田市では、平成30年度に「歴史文化基本構想」を策定した。その先がけとして、平成23年度から文化財を総合的に把握するための調査研究や普及啓発、情報発信等の事業を実施してきた。

これらの取り組みを、今後も継続し、発展させることで、活用の推進を図るものとする。

学校教育

○益田市では、市内の遺跡や文化財を時代ごとにわかりやすく紹介するパンフレットを刊行し、市内の小中学校に配布している。今後もこのようなパンフレット類の普及を図り、ふ

るさと学習の一環として見学会や出前授業など、益田の歴史や文化等に対する興味が深まる機会の提供を継続する。

- 小中学校の教員に対する史跡を活用した地域学習の研修や、地域を知り、地域の文化財を教材にする取り組みを推進する。
- 益田地区で行われている歴史探訪ウォーキング(【3-6-3 (1)① 歴史探訪ウォーキング、P100】)では、地元の中学生在がポスターづくりに協力し、地元の小学生も案内ガイドを行った。益田の歴史等をテーマとした学習と、その成果を発表する場を設けることで、子どもの意欲の向上にもつながる。ふるさと教育や総合的な学習の時間の活用、クラブ活動との連携等によって、学習とその成果の発表の場を増やしていく。

社会教育

- 益田の歴史文化をテーマとした講座を、関連施設と連携して継続的に開催する。
- ふるさと読本『益田ふるさと物語』や『中世益田ものがたり』を、ふるさと学習の教材として活用する。特に、後者は中世の益田に焦点を当て、各分野の最新の研究成果を一般向けにまとめた書籍で、案内ガイドの教材としての活用も期待される。

まちづくり・観光等

- 計画地と史跡周辺地域は、中世益田に関する多くの歴史文化が集中する地である。これらをまちづくりに活用するため、地域が主体となった地域の歴史に関する学習会の定期的な開催など、市民活動づくりとなるような支援を行う。
- 市民によって始められた七尾城跡本丸に大幟を掲げる取り組みは、城跡を視覚に訴える有効な手段であり、市民と協働して継続することを検討する。
- 現地における案内板設置や、ガイダンス施設等での情報提供をはじめ、観光ガイド、市ホームページ、スマートフォン等アプリなど、様々な媒体を通じて案内や解説を行う。また、これら媒体が連携した総合的な案内システムを構築する。



図6-3 パンフレット『中世の益田を歩いてみよう』



図6-4 歴史探訪ウォーキングで、妙義寺・益田兼義像の前で説明する小学生



図6-5 『中世益田ものがたり』

- 外国人観光客誘致のため、海外向けのガイドブックやパンフレット等への掲載に向けて努力するとともに、観光サイトのホームページや文化財等パンフレット、サイン等の多言語化や、外国語対応のQRコードの導入なども検討する。

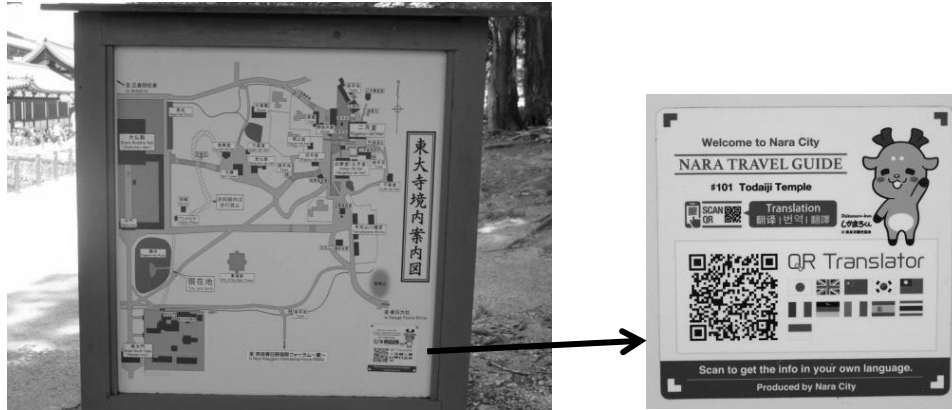


図 6-6 QRコードを使った観光案内板の多言語化(奈良市)

研究プロジェクト誘致

- 益田氏城館跡を中心とした中世益田に関する学術研究を一層発展させるため、歴史文化研究センターの充実を図るとともに、国や県、研究機関に対して研究プロジェクト誘致を働きかける。
- 誘致した研究プロジェクトによって得られた成果を、広く市民に向け公開することで益田氏城館跡のさらなる魅力向上と情報発信を行う。

6-2 管理・運営に関する計画

益田氏城館跡は、市民と行政が協働して管理・運営にあたるものとする。そのために必要な団体の組織化を図る。

体制整備

- 史跡益田氏城館遺跡群整備検討委員会は、史跡益田氏城館跡及び関連遺跡群の適切な保存、整備、活用及び管理に関する必要な事項について意見を求めるために設置する機関であり、今後も継続して指導・助言を仰ぐ。
- 益田氏城館跡の保存・整備や管理・運営、活用には、地域住民や市民団体等の主体的な参加が欠かせない。そこで、益田市と地域住民や市民等によって構成される「(仮称)史跡益田氏城館跡連絡協議会」を組織し、管理運営のための事業を立案し、実施する。

運営体制

- 益田氏城館跡の保存管理については、管理団体指定をうけて益田市が主体となり、運営、活用を支援する各組織と十分な連携を図り、取り組むものとする。

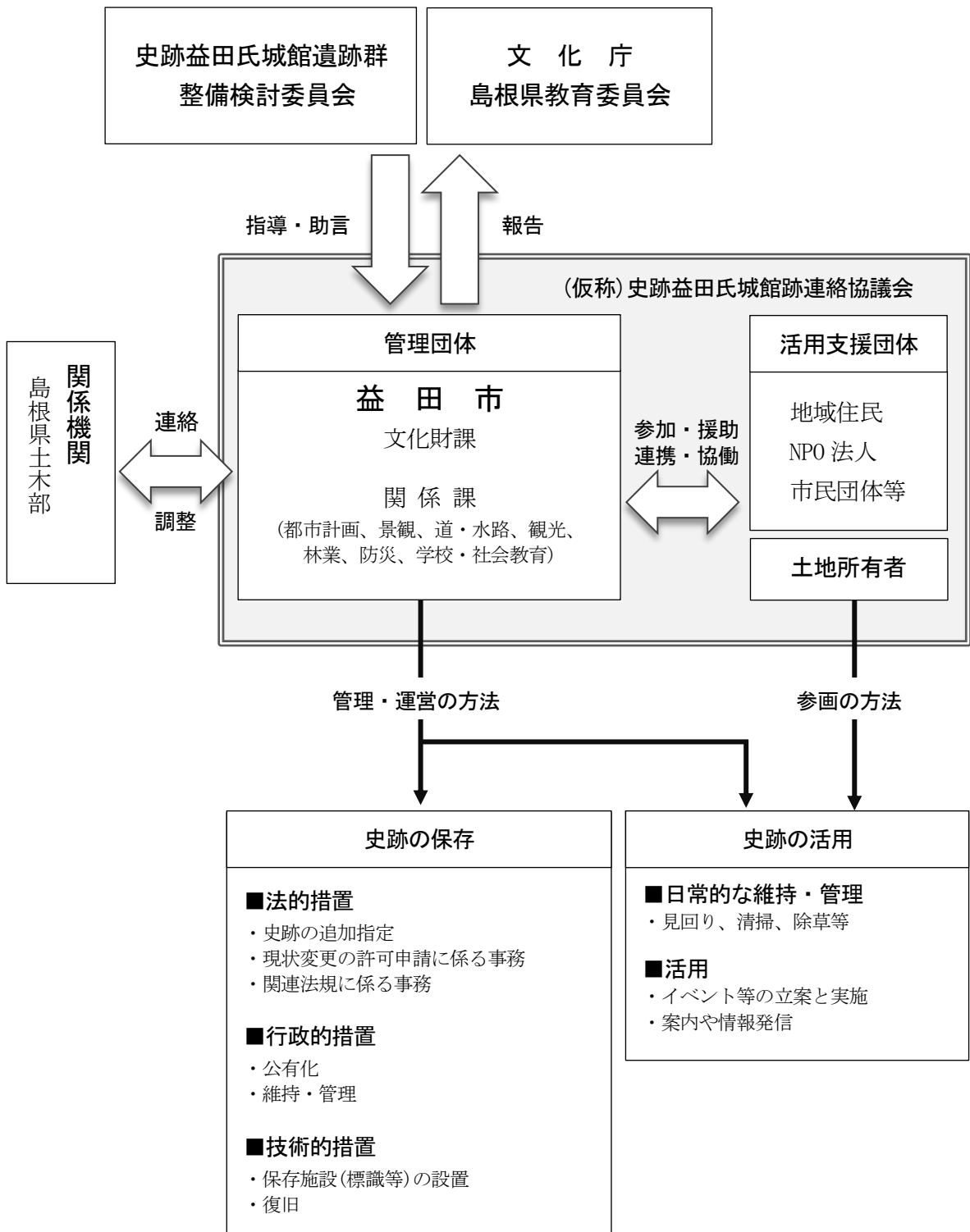


図 6-7 管理・運営体制イメージ図